

1/19

冬の味覚を堪能！ ぶり・鰯・ブリづくし

氷見の冬の名物「ひみ寒ぶり」をPRするイベント「ぶり・鰯・ブリづくし」がひみ番屋街で開催されました。

会場には、朝早くから限定200杯の「ぶりかす汁」を求め来場者で大行列が。大きなぶりの切り身や野菜が入った具たくさんのかす汁が来場者の体を温めました。

また、3人の鉄人が10kg以上のひみ寒ぶりを一斉にさばく「ブリの解体ショー」では、圧巻のパフォーマンスにくぎ付けに。その後、300人にきとぎとの刺身が振る舞われました。

その他、正解者一人に丸ごと1本をプレゼントする「ひみ寒ぶり重量当てクイズ」コーナーには当選を夢みる来場者が集まり、終日、多くの人でにぎわいを見せました。



1/19

優れた音響性能と多様な使い方を提案 新文化交流施設基本設計説明会

旧市民病院跡地に整備する「新文化交流施設」の基本設計説明会がふれあいスポーツセンターで開催され、各種団体の関係者や氷見高校生ら約60人が参加しました。

設計事務所ナスカの古谷代表は「第一に音響性能を重視したホールとするほか、可動式の客席を採用することで多様な使い方ができる」と説明。浸水被害対策として1階をピロティとし、2階にホールを設置することで、周辺地域の新たな避難場所としての役割も担います。

また、立山連峰を望むことができる展望スペースなども設け、誰もが楽しみながら集える新しい交流施設となる予定です。

今後は、実施設計を経て、令和4年度のオープンを目指します。



1/25

1月26日は「文化財防火デー」 火災から文化財を守ろう！

「文化財防火デー」に伴う消防訓練が光禅寺で行われ、住職らが市指定文化財の搬出訓練に、消防分団員や消防職員が放水訓練に臨みました。

これは、国宝法隆寺金堂の壁画が焼損した日を教訓に、地域住民の文化財に対する防火意識の向上や、消防分団員や消防団との連携などを目的に毎年行われています。

訓練後、正保消防署長が講評し、大門教育次長が「訓練を通して文化財を守り、未来につないでいきたい」とあいさつしました。



2/1

もしもに備える 速川保育園で原子力防災訓練

速川保育園で、園児と保護者ら約 50 人が参加し、原子力災害での安全確保と適切な避難行動を確認しました。

これは、志賀原子力発電所から 30km 圏内の緊急防護措置区域(UPZ)に位置する保育園や小・中学校で原子力防災に備えるため、平成 29 年度から順次行われているものです。

富山県防災・危機管理課の田畑主幹が「原子力災害時にとるべき行動」を、北陸電力地域広報部の中村副課長が「志賀原発の安全対策」を保護者に説明しました。

その後「石川県志賀町で震度 6 強の地震が発生。原子力災害の恐れがあり、市の災害対策本部から屋内退避準備の連絡が入った」という想定で引渡し訓練を実施。保護者は園児と共に「もしもに備える大切さ」を感じながら園児の手を引き帰宅しました。



2/4

両市の文化的な交流を 高雄市歴史博物館と友好協定締結

台湾の高雄市歴史博物館と氷見市立博物館が両市の発展と文化的交流を深めるため友好協定を締結しました。

高雄市は、氷見市出身の実業家で「京浜工業地帯の父」といわれる浅野総一郎翁が発展に関わったとされており、氷見市とは昨年 8 月に行われた「高雄港築港・高尾駅建設 110 周年国際シンポジウム」を皮切りに、交流を深めています。

締結式では、王御風歴史博物館長が「研究や交流を通じて両市の友好がより深まることを期待する」、大野氷見市立博物館長が「博物館の特徴を生かした文化面での交流を進めていきたい」とこれから新たに始まる両市の交流に期待を込め、あいさつしました。



2/9

事例からノウハウを学ぶ 地域づくり講演会

「令和元年度氷見市地域づくり講演会」がいきいき元気館で開催され、自治会の役員や地域づくりに関心のある市民ら約 100 人が参加しました。

はじめに、滋賀県米原市「一般社団法人大野木長寿村まちづくり会」の清水代表理事と西秋代表理事が「元気な高齢者が支え合う新たな地域のカタチ」と題して講演し、参加者はコミュニティビジネスの仕組みによる取り組みのノウハウや秘訣を学びました。

次に、仏生寺・東・宮田地区の各地域づくり協議会の会員が「おらっちゃ創生支援事業」を活用して取り組んだ地域活動について報告を行いました。参加者は各地区の特色に応じた活動報告を通して、地域づくり協議会への理解を深めました。

最後に、氷見市地域おこし協力隊の野口朋寿さん、鈴木広美さん、木村祐輝さんが、現在取り組んでいる活動について報告を行い、3年間の任期終了後の起業・就業に向けて決意を新たにしていました。

